

参院政倫審、32人審査議決

世耕・西田氏以外の出席焦点

自民含む全会一致決定

自民党派閥の裏金作りが判明した参院議員32人について、参院政治倫理審査会（政倫審）は8日、全員の審査を全会一致で決めた。全員の意向確認を12日までに実施し、参院で初めてとなる弁明・質疑が14日にも行われる見通し。どれだけの議員が弁明に立つかが焦点となつてゐる。

▼オピニオン面リ社説、派閥という存在

「参院の政倫審において初めて審査を行う」というのはじく重たい議決だ。今後は議員の意向確認といふステージに移る。与党幹事長の佐藤正久氏（自民）は議決後、記者団に「こう語り、開催に向けた準備を進める考えを示した。

参院政倫審の審査対象は、自民の31人と、在宅起訴を受けて国民を離党した大野泰正氏の計32人。政倫審の規程に基づき、議員の3分の1を占める野党が審査を申し立てていた。政倫審への出席や公開するかどうかは本人の意向が尊重されるため、32人に意向確認書を送付。12日までの回答を求めていた。

8日時点では、安倍派幹部の世耕弘成・前党参院幹事長と同派の西田昌司氏がすでに公開で弁明する意向を表明している。世耕氏は子元拉致問題担当相は、朝日新聞の取材に「ルールにのつて総合的に判断する」と繰り返した。安倍派幹部の責任を追及していた松川るい前女性局長は「まだ決めていない」と回答。裏金を「口座で管理している」と説明していた丸川珠代元五輪相や、大野氏からは回答がなかった。

政倫審出席を明言しない自民議員らに対し、立憲民主党的泉健太代表は記者会見で「全員出席は当然だ。弁明を断るなら、逃げよう、隠れようといふ姿勢が明確になる」と牽制した。衆院では組織的な裏金作りの実情を探るとの名目で、安倍、二階派の事務総長は経験者らで出席者を繩引きした経緯がある。参院では

参院政倫審に対する主な自民議員の意向

朝日新聞の取材から

世耕弘成・前参院幹事長
「議決が行われたので、しっかりと出席していきたい」

西田昌司氏
「もちろん出席する。公開でいい」

山谷えり子・元拉致問題担当相
「ルールにのつて総合的に考える」

松川るい・前女性局長
「全体のことも考えないので、まだ決めていない」

丸川珠代・元五輪相
大野泰正氏（自民党離党）
回答せず

参院安倍派の議員だった世耕氏の出席が必須とされたが、それ以外の議員出席の線引きは自民側は頭を悩ませている。

当初は「金額も線引きする」（参院幹部）との案もあつたが、多額の不記載があつた二階派会長の二階俊博元幹事長や、安倍派幹部の萩生田光一前政調会長らの不記載額が参院最多の2403万円だった山谷えり子元拉致問題担当相は、朝日新聞の取材に「ルールにのつて総合的に判断する」と繰り返した。安倍派幹部の責任を追及していた松川るい前女性局長は「まだ決めていない」と回答。裏金を「口座で管理している」と説明していた丸川珠代元五輪相や、大野氏からは回答がなかった。

またこの日は、野党側が、安倍派元幹部の下村博文元文部科学相から「出席する意思はある」との返答があつたと明らかにした。野党は、自ら衆院政倫審の審査を申し出るよう下村氏に文書で働きかけていた。野党によると、与野党の筆頭幹事は週明けに協議を行つ」ともしており、衆院政倫審の再開をめぐっては不透明な状況が続いている。